医師のコラム

# 『熱傷（やけど）のおはなし』

朝霞台中央総合病院
形成外科　扇 博之

あの暑かった夏も終わり、秋が深まってきました。もうまもなく、冬が訪れます。

従来、冬はストーブなどの暖房器具を使ったり暖房器具でお湯を沸かしたりする機会が増えて、やけどの事故が多い季節と言われてきました。現在では、産業構造や暖房機器が発達したことにより季節の変動が少なくなったと言われているものの、小さいお子さんのいるご家庭などでは、まだまだ注意が必要と思われます。

## やけどをしたら

まず、水で冷却することが重要です。水道の水で10分から30分間程度、できれば流水で冷やします。これにより、やけどのダメージを最小限に抑えて進行を食い止めます。

やけどは初期治療を誤ると治りが遅れたり、化膿して深くなる場合があります。また、適切な治療を行わないと目立った傷跡が残ることもあります。やけどをしてしまったら、すみやかに受診するようにしましょう。

## やけどの深さについて

やけどの深さの判定は、受傷早期には正確な診断が付き難く、また経過とともに深くなる場合もあります。そのため、受診の度にやけどの深さや治り具合を再評価します。

**❶Ⅰ度熱傷（表皮熱傷）**

もっとも浅いやけどです。皮膚の表面が赤くなりますが、水ぶくれ（水疱）は認められません。知覚過敏や痛みを伴います。通常1～3日程度で治癒し、傷跡も残りません。

**❷浅いⅡ度熱傷（浅達性Ⅱ度熱傷）**

水疱がある熱傷の中で、比較的浅いものです。痛みを伴います。

だいたい2週間ぐらいで治ります。色素沈着（茶色いシミ）が残る場合がありますが、傷跡はほとんど残りません。

**❸深いⅡ度熱傷（深達性Ⅱ度熱傷）**

水疱があるのは浅いⅢ度熱傷と同様ですが、皮膚のもう少し深いところまでダメージを受けているため、治るまでに3～4週間かかり、傷跡も残ることが多いです。

神経が熱で障害されるため知覚鈍麻となり、痛みが弱くなります。感染などによりやけどが深くなり、Ⅲ度へ移行することもしばしばです。皮膚移植を必要とする場合もあります。

**❹Ⅲ度熱傷（皮膚全層熱傷）**

皮膚の厚み全部が損傷された深いやけどです。乾燥しており水疱形成は無く、痛みもありません。自然治癒するのに1ヶ月以上かかります。傷跡も残ってしまいます。

ごく小さい場合を除き、多くは皮膚移植を必要とします。

## 重症なやけど

大やけどの場合、生命の危険を伴ったり、著しい機能障害を生じることがあります。

熱傷の範囲が体全体の面積に対して、小児の場合Ⅱ度15%以上、成人でⅡ度30%以上（Ⅲ度10%以上）の場合は重症熱傷として扱い、全身管理の適応となります。（ちなみに面積の目安ですが、成人の患者さんの場合、手掌の面積が体表面積の概ね1%と言われています。）

このような重症熱傷に加えて、顔面・手・足・陰部や気道熱傷、電撃傷・化学熱傷、骨折を伴う熱傷などは、大学病院・医療センターなどの専門病院での入院治療が必要です。

逆に、熱傷の範囲がⅡ度15%未満（Ⅲ度2%未満）の場合は軽症で、入院の必要は無く外来通院が可能といわれています。

## 最後に

やけど全体の年齢層では、10歳以下が多数を占めています。

このなかでも熱湯・熱汁（やかんの湯、ポット、ストーブの上の湯、鍋の湯、茶碗の湯など）による熱傷は5歳以下に多いと言われています。また、5歳以上の小児では、浴槽内への転落による広範囲熱傷に対する注意も必要です。

周囲の大人が気を配ってあげる事で、子供のやけどを減らすことができると思います。